

吃音の症状に理解を 古里小5年生 接し方聞く



吃音について学ぶ児童

ん(37) = 安曇野市 =
は、小学校時代に教科
書を音読できなかつた

そんな時は待って聞いてほしい」と理解を求めた。

り、自分の名前が言えなかつたりした経験を紹介し、「からかわれる」ともあつて毎日不安な気持ちで学校生活を送つていた」と振り返つた。その上で、「困つている人がいたら想像力を持つて接してほしい」と語りかけた。

言語聴覚士の内藤麻子さん(56)＝松本市

保護者を含め約160人が聞いた。授業後、中村ひかりさん(11)は「吃音がある人がいたら、ちゃんと向き合つてゆっくり話を聞きたい」、徳永ひなたさん(11)は「障害があつても、みんな同じように過ごしたい」とそれぞれ話していた。

古里小学校の5年生は12日、総合的な学習の時間の授業参観で、言葉がつかえたり出にくくなったりする「吃音」について吃音の当事者や言語聴覚士から学んだ。

同校は、吃音のある児童の要望をきっかけに同様の授業を行っており、今回で4回目。ほど話しづらくなる。紹介。「吃音が出ない工夫すればするほど吃音の特徴や症状をスライドや映像で紹介。」